

【所 感】

長崎市議会議員 井上重久

福州市友好都市提携 35 周年記念公式訪問（報告書）！

公式訪問団(25 人)出発！

長崎市・長崎市議会は、加藤副市長を団長として理事者・職員 12 名、議員 13 名の 25 人が参加して 11 月 9 日（月）から 13 日（金）までの 4 泊 5 日で中華人民共和国福建省福州市、上海市を訪問した。公式訪問の目的は、多くの長崎華僑の出身地である福州市との友好都市提携から 35 周年を迎えることから、公式訪問団を派遣し、これまでの交流の確認を行うとともに、記念行事への出席や技術交流などを通じて相互理解を図ることなどにより、さらなる関係強化と交流促進につなげるものです。訪問団の構成は、県訪中団から福州市へ 3 人、水産交流班 11 人、水道交流班 11 人の合計 25 人となった。福州市への訪問は、15 年前に県の市民交流団として訪問、5 年前の公式訪問と合わせ、今回で 3 度目の訪問となる。



出発前の結団式



上海浦東国際空港

11 月 9 日（視察初日）は、10 時に市議会第 1 応接室に集合し、4 泊 5 日の公式訪問団の結団式を行い長崎空港に向った。長崎空港には、長崎県の訪中団も参加しており、出国手続後、13 時発（中国東方航空 520 便）の飛行機で上海まで飛び立ち、上海浦東空港には現地時間 13 時 40 分過ぎ（日本との時差－1 時間）に到着した。その後、入国手続を終えて、16 時 20 分発（中国東方航空 5631 便）で福州長楽国際空港に飛び立った。現地到着は 18 時過ぎ、小型バス 2 台に分乗し、そのまま福州市外事僑務弁公室主催招宴の会場に向った。空港から会場までの所用時間は、約 1 時間程度かかるとの話であったが、市中の交通渋滞に遭遇し会場には 20 時前に到着した。

高速道路・幹線道路とも、片側 3 車線から 4 車線あるにもかかわらず、交通量の多さにびっくりするとともに、あちらこちらからクラクションの音が鳴り響いていた。また、バスの車窓から都市部のマンションを見れば、綺麗なネオンが施され素晴らしい景観と思いながらも、建設中のためか部屋の明かりは見当たらず生活空間はなかつ

たが、多くの高層マンションが建ち並んでいた。招宴会場では、福州市人民政府外事弁公室張副主任の歓迎を受け、若干遅めの夕食をとりながら交流・友好を図った。



高層マンションのイルミネーション



福州市人民政府外事弁公室の招宴

水産交流団わかめ養殖地・海洋漁業技術センター視察！

視察2日目（11月10日）、水産交流団（11名）は8時過ぎ頃ホテルを出発、福州市内は通勤途上の時間帯で、車やバイク、電気自転車などクラクションを鳴らしながら、日本では見るような事がない交通ルール違反？マナー無視か？福州市ではあたり前か？よくわからないがさっそうと走っていた。午前中は海洋開発有限公司のわかめ養殖地を訪問、わかめ養殖地までは約2時間のコースで、養殖地周辺は道路のインフラが進み、凸凹道をバスに揺られながら現地に着いた。周辺の海面には、大きないかだがいたる所に張りめぐらされ、スケールの大きさ・多さに圧倒された。



福州市内通勤途上のバイク・電気自転車



幹線道路のインフラ整備進む

海洋開発有限公司は、1955年創立、漁民7,300世帯と提携して、昆布の育成、養殖、加工、販売等を総合的に行っている。年間の昆布の養殖面積は700ヘクタール、昆布苗の育成は20万枚、昆布製品は年間25万トン、その他になまこ・アワビ等の育成・養殖、年間売上は5億元（日本円で約100億円）と、中国でも有数の規模を誇り最大海帯育苗基地となっている。昆布養殖の立地条件が良いのか、成長が早く、海温に左右されない、病気に強い3種類（薄い・厚い）の昆布苗が育てられ・養殖されている。視察後の意見交換のなかで、林社長は日本のクロマグロの養殖にも興味を持たれていた。



昆布の養殖(全長 3m超)



海洋開発有限公司で育てられた昆布苗

昼食後、再び約 2 時間程度バスに揺られて「海洋漁業技術センター」を訪問、事業概要の説明を受け、実験室・研究室を視察した。長崎市と福州市は友好都市提携以来、水産分野での友好交流は年々深まり、相互訪問は 49 回におよび、技術交流、優良品種の相互寄贈及び研修生の相互派遣を行ない、両市の重要な交流事業となっている。長崎市から福州市にクロアワビ親貝の寄贈を契機に、福州市において品種改良を行ない、成長が早く病気に強いハイブリッドアワビを開発したことにより、福州市のアワビ養殖は飛躍的に発展している。海洋漁業技術センターは、漁業の研究、技術の普及、病害の予防等の役割を果たし、国内外から牡蠣、アワビなどの優良品種を導入し、新たな養殖システムを推進し福州市の漁業の発展を促進している。



海洋漁業技術センター実験室



海洋漁業技術センターでの意見交換

福清市江陰港（福州保税港）・黄檗山万福寺視察！

視察 3 日目（11 月 11 日）、8 時 20 分過ぎホテル出発、前日に続きバスに乗車し約 2 時間かけて福清市江陰港（福州保税港）を訪問。この福清市江陰港（福州保税港）は、2012 年から 2030 年にかけて港湾が整備されており、現段階でコンテナ岸壁は 1 km にも及びコンテナ専用のクレーン（60 トン）は 10 基、コンテナ置場には 20 トンクラスも設置されており、今後の港湾整備の説明を聞いて、スケールの大きさに度肝を抜かれた。物流拠点の整備は、将来の貿易拡大に向けて、経済の飛躍的発展を目指すもので、中国政府も含めた施策の一つであると思われる。広大な土地を有する、中国ならではのと思いつつ、私自身納得せざるを得なかった。

福清市江陰港視察後、福清市の黄檗山万福寺（重要文化財）を訪問。この黄檗山萬福寺は、日本でなじみの隠元禪師が46歳の時住職となり、当時中国においても高名な僧として、その名声は日本に届いていたと記されている。隠元禪師は、中国明時代の1592年福建省福州府に生まれ、29歳で仏門に入り63歳（1654年）の時に、30名の弟子とともに来日し始めは長崎の興福寺の住職となっている。京都宇治市にある黄檗山萬福寺は、黄檗宗の中心寺院で隠元禪師を開山に講じて建てられ、建物や仏教の様式、儀式作法など中国風で、日本の仏教寺院とは異なった景観を有している。隠元の来日と萬福寺の開創によって、新しい禅やさまざまな中国文化が日本にもたらされた。隠元の名に由来するインゲン豆のほか、孟宗竹、スイカ、レンコンなどもたらしめたのも隠元だといわれている。



福清市江陰港（福州市保税港）



黄檗山万福寺（重要文化財）

視察3日目（11月11日）午後からは、福清市主催昼食会の後、福清市から約2時間かけて福州市に戻るが、あいにくの雨に遭いながら福州自由貿易試験区受付ホール、三坊七巷（さんぼうななこう）を視察。福州自由貿易試験区受付ホールは、福州市における貿易製品の輸入・輸出時の税関手続きの簡素化を図り、利便性の向上や金融相談などを行う場所として運営されている。将来の国際貿易の拡大をにらみながら、試験区の整備も計画されていた。三坊七巷は、市街地の中心に位置し907年～960年の時期に形成された街で、北から南へ10本の通りが並び坊は役人や文化人等は多く住み、巷は庶民が住んでいた下町であった。古き建築物や道路が修復され、歴史的景観が再現され歴史を活かしたまちづくりが行われ、多くの観光客で賑わっていた。



福州自由貿易試験区受付ホール



歴史的景観が再現された三坊七巷

歓迎レセプション・水産交流協議書調印式！

視察 3 日目 (11 月 11 日) 夕方は、18 時過ぎに歓迎レセプション会場に到着後、福州市副市長との会見に臨み、福州市人民政府胡副市長より「両市では多くの分野で交流が深まっており、公式訪問団を歓迎する」、長崎市加藤副市長より「交流 35 周年を記念し訪問した。今後とも友好と交流を築いていこう」との挨拶があり、双方からそれぞれメンバーの紹介や記念品の交換があった。また、公式訪問を機に、2008 年 4 月に「水産交流協議書」を締結以来、双方が技術研修員を派遣し、水産養殖交流分野で大きな成果を収めており、福州市の水産交流協議書 (更新) の調印式も行われた。協議書の内容は、今後も必要な時期に相互訪問団を派遣し、漁業について視察し、海洋資源と環境保護、海洋科学技術、漁業貿易などについて交流を深めることなど 5 項目からなっている。



福州市歓迎レセプション(記念品の交換)



水産交流協議書調印式

長崎県上海事務所・長崎魚市アンテナショップ視察！

視察 4 日目 (11 月 12 日) 5 時起床、6 時 50 分上海市へ移動のためホテルを出発、8 時前後に福州長楽国際空港に到着、10 時 50 分発の上海虹橋国際空港に向けて飛び立つ。空港から上海市の昼食会場へ移動、タイミングよく 12 時に到着した。福州市出発時も雨だったが、上海市も雨模様の天気であった。その昼食会場のビルに長崎県上海事務所が入居していた。1 階にはローソンも店舗を出し、その隣には日本の海鮮料理店も営業を行っていた。13 時に長崎県上海事務所を訪問、上海事務所は平成 3 年長崎県が事務所を開設、県内企業の中国進出支援や PR、航空路線の維持拡大、友好交流支援等を行っている。

スタッフは、日本人 2 名 (県、1 8 銀行)、中国人 3 名、顧問 2 名に体制で運営し、最近では長崎鮮魚の輸出拡大対応やクルーズ誘致対応などもサポートしている。最近の中国の動きは、日本と変わらず高齢化社会や労働力人口が減少し、一人っ子政策が緩和されている。また、インターネットショッピングにおける購買力は、11 月 11 日の一日間で 870 億元 (1.7 兆円) の売り上げがあり、75 秒で 1 億円のネット販売が行われている。人口は現在約 13.8 億人、ピーク時は 2025 年に約 14.1 億人まで増えると予測されているとの説明を受け、スケールの大きさに圧倒された。



長崎県上海事務所での概要説明



上海事務所(長崎県貿易協会)

上海事務所視察後、**長崎魚市アンテナショップ**を訪問。アンテナショップは、長崎魚市株式会社が平成 20 年に「上海東方国際水産中心」内に開設したもので、新長崎漁港で水揚げされた鮮魚を長崎・上海間の空路を利用して上海・北京をはじめ 32 都市約 550 社に輸出されている。“長崎鮮魚”は、平成 17 年輸出が開始され、当初は 3 トンで 500 万円程度であったが、平成 18 年は 22 トン 4,200 万円、平成 26 年 160 トン (7.2 倍) 4,880 万円 (11.6 倍) となっており、長崎産生魚マグロは当初の 1.4 トンから平成 26 年度は 48.5 トンとなっている。平成 27 年度の予測は、輸出数量 210 トン、金額 7,500 万円を見込んでいると、上海大菱食品有限公司の代表から説明を受けた。今後の課題は、長崎・上海間の運航便の増や運ぶスペースの拡大、飛行機の大型化が必要で、“長崎鮮魚”は好評を得ていると述べられた。

アンテナショップ視察後、南京路を散策しながら上海市の観光地「豫園」を訪問、「豫園」の中は 17 時 30 分を過ぎており観る事が出来ず、雨に打たれながら土産店を見て回った。豫園周辺は、古き建築物にライトアップやイルミネーションが飾られ、観光客も多数訪れ大いに賑わっていた。5 年前の公式訪問の時、一度豫園を訪れていたが、時間をかけてゆっくりと見学したいと思った。約 1 時間程度、豫園に滞在し、19 時 30 からの夕食会となった。ようやく中国料理にも慣れ、出てくる料理を美味しく食し、冷えたビールを飲み干し、上海の雨の夜を観賞した。ホテル帰着は 21 時 30 分頃、翌日の帰国準備を整え、ホテルの同僚の部屋で一杯飲みながら床についた。



上海大菱食品有限公司での意見交換



上海市の観光施設「豫園」

上海市視察・最終日！

訪問団最終日 (11 月 13 日) 前日同様 5 時起床、朝食は 6 時 40 分までに済ませ、

朝の交通事情を考慮しホテルは7時前に出発した。上海発は9時40分（中国東方航空 MU519 便）と時間的余裕があると思っていたが、空港内は週末の金曜日で日本への観光や帰国する人などで混雑しており、出国手続きに時間がかかり搭乗時間にも間に合わない状況となり、特別にワッペンをもらい空港職員の誘導で手続きを済ませ、買い物する時間もなく飛行機に飛び乗った。中国への公式訪問は今回で4回目、土産はゆっくり上海空港で買おうと思っていたが、思うようにならず残念な結果となった。

中国訪問（福州市・上海市）は、15年前に組合役員在任中に市民訪問団のメンバーとして参加以来、5年前の30周年記念公式訪問、3年前の長崎—上海航路の公式訪問、今回の35周年記念訪問と合わせ4回目の訪問となった。中国は、オリンピック・上海万博の開催で高速道路や幹線道路の整備が進み、交通量も従来と比較して大幅に増加、電気自転車・バイクが街並みを往来し、通勤時間帯・市中心部は交通渋滞が発生している。幹線道路の周辺は、高層ビルやマンションが建ち並び郊外の住宅建設も進み、飛躍的に近代化が進んでいるが、高層ビルの電飾の明かりと比べ、個人住宅や集合住宅の生活空間の明かりは乏しく感じた。



海洋開発有限公司での昼食会



海洋開発有限公司玄関前にて

最近の中国の動きについて、上海事務所のスタッフは、日本と変わらず高齢化社会や労働力人口が減少し、一人っ子政策が緩和されている。また、インターネットショッピングにおける購買力は、11月11日の一日間で870億元（1.7兆円）の売り上げがあり、75秒で1億円のネット販売が行われている。人口は現在約13.8億人、ピーク時は2025年に約14.1億人まで増えると予測されているとの説明を受けながら、中国の広大な土地・山・川、世界180か国のなかでトップを誇る人口等、何事にもスケールの大きさに圧倒された。国内総生産（GDP）は、アメリカ、中国、日本、ドイツと続き正に経済大国と呼ばれ、5,000年の歴史が今日まで引き継がれ、中国の伝統・文化・歴史などが日本にも伝来している。

今回の訪問は、福州市友好都市提携35周年を記念して、水産交流団のメンバーとして11月9日～13日まで4泊5日、中国福州市・上海市を訪問し、友好・交流を深めるとともに、中国経済の急速な発展、道路・住宅、物流拠点などのインフラ整備、中心市街地の食文化などについて見聞を広めた。また、食文化では、中国人は生の魚（刺身）を食べる習慣がないと聞いていたが、最近では若い世代の中間層や富裕層の観光客が日本を訪れ、美味しいものを日本で食して帰国し、中国でも一つの例として“長崎鮮魚”が高級レストランなどで販売されている。人口密度世界一の上海市、2,500

万人の人口の内 10 万人が 1 兆円の資産家とか、ちなみに車の NO プレートの登録費は 90 万程度かかるとのこと、交通渋滞抑制策の一環とはいえ哑然とさせられた。タイトなスケジュールの中ではあったが、現地を訪れて自分の目で確認する、耳で直に聞くこと、そして体験・経験することが大切であると思った。

